

# 基礎看護学実習 I

## I 実習目的

入院療養環境および入院している対象を理解し、その人に必要な日常生活援助を実施するための基礎的な知識・技術・態度を修得する

## II 実習目標

- 1 対象の入院療養環境を理解する
- 2 病棟における看護活動の実際を理解する
- 3 対象と適切なコミュニケーションを図る
- 4 入院している対象の現状から個別性に応じた日常生活援助の必要性を理解する
- 5 対象に応じた日常生活援助を安全・安楽に実施する
- 6 看護学生として責任ある行動をとる
- 7 実習を通して看護師を目指す上での自己の課題を考察する

## III 実習構成

### 1 単位と時間数

1単位 (総時間数 45時間)

### 2 実習構成内容・実習場所・実習時間

実習構成内容	実習場所	実習時間
入院している対象の療養環境の理解 個別性に応じた日常生活援助の実施	新潟県立十日町病院 新潟大学地域医療教育センター一魚沼基幹病院 町立津南病院 等	39H
学内実習	新潟県立十日町看護専門学校	6H

#### IV 実習内容

実習目標・行動目標	実習内容
<p>1 対象の入院療養環境を理解する</p> <p>(1) 実習病院の概要説明から実習病院の特徴を述べる</p> <p>(2) 療養環境の特徴を述べる</p> <p>(3) 受け持ちの対象の療養環境と自宅環境との類似点・相違点を看護の視点で述べる</p>	<p>①実習病院の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院の特徴、機能、役割</li> </ul> <p>② 実習病棟の概要と特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟の機能、構造、設備（トイレ、風呂、面会室、通話可能エリア）</li> <li>・病室・病床に設置されているもの</li> </ul> <p>③ 生活空間の観察・測定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温度・湿度、光（採光、室内灯、枕灯、足元灯）、明るさ、音、騒音、色彩、空気の清浄性におい・プライバシーなど</li> </ul> <p>④ ベッド周囲の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔、安全な移動、ベッド周囲の物品、プライバシーの保持、治療・援助に支障をきたしてないか、床頭台、テレビ、冷蔵庫</li> </ul> <p>⑤ヘンダーソン・ナイチンゲールの看護理論の活用</p>
<p>2 病棟における看護活動の実際を理解する</p> <p>(1) 看護師への同行を通して、受け持ちの対象に対する看護活動を述べる</p> <p>(2) 看護師への同行を通して、対象の日常生活状況に応じた看護援助の工夫や配慮に気付く</p>	<p>①看護師の看護活動の実際（コミュニケーション、バイタルサイン測定、日常生活援助、検査の介助、他科受診の準備、看護師同士の報告・連絡・相談、多職種連携、カンファレンス、看護記録）</p> <p>②看護活動の見学における自己の気づき</p>
<p>3 対象と適切なコミュニケーションを図る</p> <p>(1) 対象の療養環境に配慮した行動を示す</p> <p>(2) 対象を尊重した言葉遣い・態度を示す</p> <p>(3) 接近的行動を用いながらコミュニケーションを図る</p> <p>(4) 対象の非言語的コミュニケーションに気づく</p>	<p>①看護師の倫理綱領（日本看護協会）</p> <p>②療養環境（物理的環境・人的環境）</p> <p>③言語的コミュニケーション</p> <p>④非言語的コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外見、表情、視線、相手との距離・身体の向き、姿勢・動作、ジェスチャー、声量・声のトーン話し方</li> </ul> <p>⑤コミュニケーションに必要な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、身だしなみ、プライバシーの配慮、価値観の尊重、受容的態度</li> </ul> <p>⑥積極的な傾聴、共感的傾聴</p> <p>⑦接近的行動</p> <p>⑧質問技法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた質問（open end question）</li> <li>・閉ざされた質問（closed question）</li> </ul> <p>⑨コミュニケーションを図りながら、患者の反応を観察する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の表情、反応、痛みや苦痛の有無</li> </ul>
<p>4 入院している対象の現状から個別性に合った日常生活援助の必要性を理解する</p> <p>(1) 対象との関わりを通して、現在の日常生活動作を述べる</p> <p>(2) 対象との関わりを通して、入院している対象の思いや希望を知る</p>	<p>①生活習慣（食習慣、食事時間、入浴時間、入床時間、起床時間、睡眠時間）</p> <p>②家族状況、家族役割</p> <p>③活動範囲、行動範囲</p> <p>④自立度、安静度</p> <p>⑤身体機能、関節可動域、疾患や症状に伴う制限の程度</p>

<p>(3) 対象の現在の日常生活動作から、援助の必要性を述べる</p> <p>(4) 日常生活援助を行う上での留意点や配慮することを述べる</p> <p>(5) 対象の状態に合わせた日常生活援助を計画する</p>	<p>⑥自宅での生活との変化</p> <p>⑦入院に対する対象の思い、希望</p> <p>⑧日常生活援助の必要性</p> <p>⑨留意点や配慮</p> <p>⑩個別性</p> <p>⑪ヘンダーソン・ナイチンゲールの看護理論の活用</p>
<p>5 対象に応じた日常生活援助を安全・安楽に実施する</p> <p>(1) 対象の状態に合わせながら、正確にバイタルサインを測定する</p> <p>(2) 対象と対象の療養環境に配慮し、安全に環境整備を実施する</p> <p>(3) 計画した援助を看護師とともに安全・安楽に実施する</p> <p>(4) 対象の反応と実施した援助を関連させ、客観的に自己の援助を振り返る</p>	<p>①情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院前の日常生活動作、仕事、生活習慣</li> <li>・現在の日常生活動作</li> <li>・療養環境</li> </ul> <p>②バイタルサイン測定</p> <p>③環境整備</p> <p>④患者のその時に応じた援助実施の可否</p> <p>⑤日常生活援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明と同意</li> <li>・援助の目的、方法、留意点</li> <li>・援助の根拠となるもの</li> <li>・援助の原理・原則</li> <li>・安全・安楽な援助</li> <li>・個別性</li> <li>・正確性</li> <li>・援助を受ける患者の表情・反応</li> <li>・援助実施後の自己の振り返り（援助方法の選択・自己の技術）</li> <li>・準備、後片付け</li> </ul> <p>⑥プライバシーへの配慮</p>
<p>6 看護学生として責任ある行動をとる</p> <p>(1) 実習要項に基づいた身だしなみに整える</p> <p>(2) 必要な報告・連絡・相談ができる</p> <p>(3) 主体的に学習する姿勢を示す</p> <p>(4) 適切に実習記録を取り扱う</p> <p>(5) 指定された提出期限・提出方法を守り、実習記録・課題を提出する</p>	<p>①看護職の倫理綱領（日本看護協会）</p> <p>②ユニフォーム着用時の身だしなみ</p> <p>③挨拶</p> <p>④言葉遣い</p> <p>⑤心身の健康管理</p> <p>⑥看護師、看護教員、グループメンバーに必要な報告・連絡・相談</p> <p>⑦約束の遵守</p> <p>⑧事前学習・追加学習</p> <p>⑨守秘義務・個人情報の取り扱い</p> <p>⑩記録物の取り扱い</p> <p>⑪提出物の締切厳守</p> <p>※学生便覧「臨地実習」参照</p>
<p>7 実習を通して看護師を目指す上での自己の課題を考察する</p> <p>(1) 実習を通して、対象に日常生活援助を実施するために必要なことは何かを考察する</p> <p>(2) 実習での経験を通し、実習の場面を振り返りながら今後の自己の課題を述べる</p>	<p>①日常生活援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明と同意</li> <li>・援助の目的、方法、留意点</li> <li>・援助の根拠となるもの</li> <li>・援助の原理・原則</li> <li>・安全・安楽な援助</li> <li>・個別性</li> <li>・正確性</li> <li>・援助を受ける患者の表情・反応</li> <li>・援助実施後の自己の振り返り（援助方法の選択・</li> </ul>

	自己の技術) ・準備、後片付け ②プライバシーへの配慮 ③患者の思いを尊重する ④自己のコミュニケーションの特徴
--	--

## V 実習配置

別紙参照

## VI 実習方法

- 1 病棟オリエンテーションを受け、対象の療養環境を理解する
- 2 看護師に同行し、対象の看護場面を見学する
- 3 看護師の指導を受け、対象とコミュニケーションを図る
- 4 1人の対象を受け持ち、対象に必要な日常生活援助を計画し、看護師と一緒に実施し、評価する

実習で実施できる主な技術項目

- 1 バイタルサインの測定：腋窩検温、脈拍測定、呼吸測定、血圧測定 SPO<sub>2</sub>測定
- 2 環境：病床環境の整備、ベッドメイキング、シーツ交換
- 3 活動：安楽な体位、体位変換、車椅子およびストレッチャーによる移動、移送、歩行介助
- 4 排泄：便器介助、尿器介助、おむつ交換、ポータブルトイレでの排泄
- 5 清潔：入浴およびシャワー浴介助、清拭、陰部洗浄、手浴、足浴、洗髪、口腔ケア（義歯洗浄含む）、整容
- 6 衣生活：寝衣交換
- 7 食事：食事の準備、ポジショニング、配膳、下膳

## VII 実習記録

- 1) 基礎看護学実習Ⅰ 評価表 (基礎Ⅰ 様式1)
- 2) 学修成果レポート (基礎Ⅰ 様式2)
- 3) 実習病院の特徴 (基礎Ⅰ 様式3)
- 4) 環境調査票 療養環境 (基礎Ⅰ 様式4-①)
- 5) 環境調査票 日常生活 (基礎Ⅰ 様式4-②)
- 6) コミュニケーションの振り返り (基礎Ⅰ 様式5)
- 7) 受け持ち患者の援助計画と実施記録 環境整備 (基礎Ⅰ 様式6-①)
- 8) 受け持ち患者の援助計画と実施記録 バイタルサイン測定 (基礎Ⅰ 様式6-②)
- 9) 受け持ち患者の援助計画と実施記録 (基礎Ⅰ 様式6-③)
- 10) 毎日の実習記録 (基礎Ⅰ 様式8)
- 11) 事前学習・追加学習
- 12) 看護技術経験録

## VIII 実習評価

最終評価は、評価表に基づき担当教員が評価する